



富山県カンボジア王国親善協会

事務局・富山市小中163番地

阪神化成工業株式会社内

T076-429-1865 F429-6042

発行責任者 中山 隆

事務局担当 石黒 美和

## ご挨拶

富山県カンボジア王国親善協会 会長 高田順一

3月4日富山空港を富山県カンボジア王国親善協会として第5回目の訪問団がカンボジアに向けて旅立ちました。今回の参加者は23名でしたが、福井県から6名、山口県から1名参加していただきました。

旅行の目的も観光、ライオンズクラブのアクティビティの調査、技能実習生の面接とそれぞれでした。仁川空港での乗り継ぎは何時もの通り待ち時間5時間です。前はレストランでたくさんのビール瓶を空にしましたが、今回は有料ラウンジで過ごしました。乗り継ぎの利用であれば3時間食べ飲み放題で24ドルです。質的に納得でしたが、次回もここに立ち寄るかは未定です。今年の秋からANAの成田ーポンペン直行便が就航予定です。

2年ぶりに到着したシェムリアップ国際空港はすっかりきれいになっていました。帰国するときに利用したポンペン国際空港も来るたびに装いを新たにしており、年々インフラ整備が進んでいると感じました。

翌5日はアンコールトム、アンコールワット、タプローム寺院、シェムリアップの3大観光スポット巡りです。1日観光パスを購入するため、公園のゲートのラインに並ぶ必要があります。外人観光客で混雑していましたが、手際よく顔写真入りのパスを発行してもらえました。国家予算の25%を観光パスの発行収入が占めると聞きました。以前来たときには民間会社がこのゲートを管理していました。その時の印象は大きな利権と思いましたが、最近政府直轄になったようです。

今回のガイドによれば以前のように大型バスが観光スポットの近くまで行くことは出来なくなった。少し離れた駐車場から歩く必要がある。5年後にはもっと規制が厳しくなり、今回のように1日で3か所を巡ることは出来なくなる。1日1か所になるから、今のうちにシェムリアップに来るよう日本に帰ったら宣伝してほしいと言われました。

6日はポンペンへの移動日ですが、今回はカンボジアのアンコール航空会社の中型ジェットを利用しました。カンボジアの航空会社に乗り込むのは初めての経験でした。



ホームステイ歓迎会H27.8.28

ポンペンの観光は2か所でした。最初はポルポト政権時の強制収容所として使用された施設です。現在は歴史博物館として当時の非情な統治を物語っています。ガイドの話に耳を傾け、どうして人間はここまで狂気になれるのか、独裁、無知、疑惑、戦争の怖さが身に染みしました。その後王宮、銀寺を訪ねましたが、あまりの暑さに疲れが倍加しました。

その夜はメコン河のほとりにあるクメールレストランで隈丸大使、蓮沼、藤本書記官はじめ来賓をお招きしての懇親会を催しました。CJCCのスタッフと一緒に3年間のホームステイプログラムに参加した8人の元学生にも参加していただき、旧交を温めました。

ポンペンでレストランを起業するため黒部から家族と一緒に移住してきた米陀さんも参加してくれました。もうすぐ開店できるとのことでした。

7日は最終日で午前中に日本大使館、CJCCを訪問しました。CJCCではホームステイプログラムはカンボジアの学生にとってとても魅力のあるプログラムであり、是非継続して欲しいと評価していただきました。午後は経済開発特区の協和製函、タイワ精機を訪問しました。

2年前の経済開発特区は用地開発が終わった段階でしたが、今回は多くの企業が進出しておりスピード感を感じました。ミネベアの巨大な増設工事を佐藤工業が請け負っていることも知ることが出来ました。

海外進出することは大変なご苦労があり、思わぬリスクに愕然とすることがあると思います。しかしそれを乗り越えていく強い意志と明確な目標があればこそ頑張れるのではないかと拝察いたします。皆様のご発展を祈念するとともに、次回訪問するときの経済開発特区の変わりようが今から楽しみです。

今回は天候にも恵まれ大きな混乱もなく無事帰国することができました。

毎回大変短い日程で参加していますが、カンボジアは急速に成長し変化していることを実感します。次回はもう少しゆっくりした時間をかけて訪問してみたいと思います。